

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第1区分
 【発行日】平成22年2月4日(2010.2.4)

【公開番号】特開2007-202552(P2007-202552A)
 【公開日】平成19年8月16日(2007.8.16)
 【年通号数】公開・登録公報2007-031
 【出願番号】特願2006-336023(P2006-336023)
 【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

G 0 1 N 27/447 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 Z N A A

C 1 2 N 15/00 A

G 0 1 N 27/26 3 1 5 F

【手続補正書】
 【提出日】平成21年12月11日(2009.12.11)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 9
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 9】

DNA分子は、ヌクレオチドと呼ばれるサブユニットの直線状ポリマーである。各ヌクレオチドは、フォスフェート基によって隣接ヌクレオチドの糖に連結される共通の環状糖分子と、塩基と呼ばれる異なる環状置換基の一つを含む。該糖及び塩基の組み合わせは、ヌクレオシドと呼ばれる。天然起源からのDNAにおいて共通に見つけられた4つの塩基は、アデニン、グアニン、シトシン及びチミン（本明細書で以下、A、G、C及びTと夫々呼ばれる）である。個体のDNAにおけるこれら塩基の直線配列は、その「ゲノム」である。それは、タンパク質の合成のための情報を生み出すコード領域、遺伝子発現の制御のための領域、及びその役割が完全に理解されていない所謂「非コード」領域を含む。

【手続補正2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 5 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 5 6】

全ての場合において、サンプルにおける第1の及び第2の核酸フラグメントが区別可能でなければならない。典型的に、分析方法が電気泳動である場合、該フラグメントは、サイズにおいて10~100 bpの間、好ましくは20~100 bpの間だけ異ならなければならない。しかしながら、分析方法が質量分析である場合、この方法はより高い解像度を有する故に、サイズにおいて2~100bpの間だけ異なるフラグメントを有すると十分でありうる。